
道道きたひろしま総合運動公園線の 整備における環境保全を考える協議会

【 第 2 回 】

会議資料

令和2年6月29日

北海道空知総合振興局
札幌建設管理部

1. 検討事項の整理

検討内容の報告

2. 橋梁計画

橋梁設計概要

■ アクセス道路に係わるいただいた意見について

アクセス道路に関する意見交換会（北広島市）で議論された、「アクセス道路に係わる要望事項の対応について（12項目）」のうち、当協議会で継続協議する項目を整理

アクセス道路に関する意見交換会（北広島市）				当協議会	
No.	目的	意見	最終回答	No.	継続協議の概要
1	エゾシカ等のロードキル 交通安全	橋梁や函渠を多く設置する	河川横断部は函渠ではなく橋梁として動物の移動経路を確保する	①	定点カメラによる移動経路調査により有効な対策検討を進める 景観への配慮も併せて検討する
2		侵入防止策は景観に配慮する	エゾシカ調査の結果により柵の設置を検討する。 景観については専門家の意見を伺う		
3		運転者への注意喚起	野生動物への警戒のため標識を設置する		
4	両生類・昆虫のロードキル	側溝は素掘側溝とする	スロープ付き側溝とする	②	両生類・昆虫のロードキル対策事例を調査し、総合的な対策を検討する
5	外来種抑制	法面緑化は表土を再利用	すき取り土や在来種を用いて植生する	③	具体的な植生工法の検討を進める
12	植物等への塩害	融雪剤散布はしない	自然環境への影響を最低限にとどめるよう配慮する	④	冬季の路面管理方法の検討を進める
6	河川の汚濁・塩害	裏の沢川へ直接排水しない	溜池の設置を検討する		
7	植物生育・昆虫生態	街灯は設置しない	設置しない	-	
8	小動物のコリドー確保	オーバブリッジ等の設置	設置しない	-	
9	騒音防止・交通安全	排水性舗装にする	通常の舗装とする	-	
10	景観	視線誘導票を工夫する	小型のデリネータとする	-	
11	景観	電柱は設置しない	設置しない	-	

最終回答を踏まえ、①～④の項目について総合的に検討を進める。

① 定点カメラによる調査

【エゾシカの調査方法】

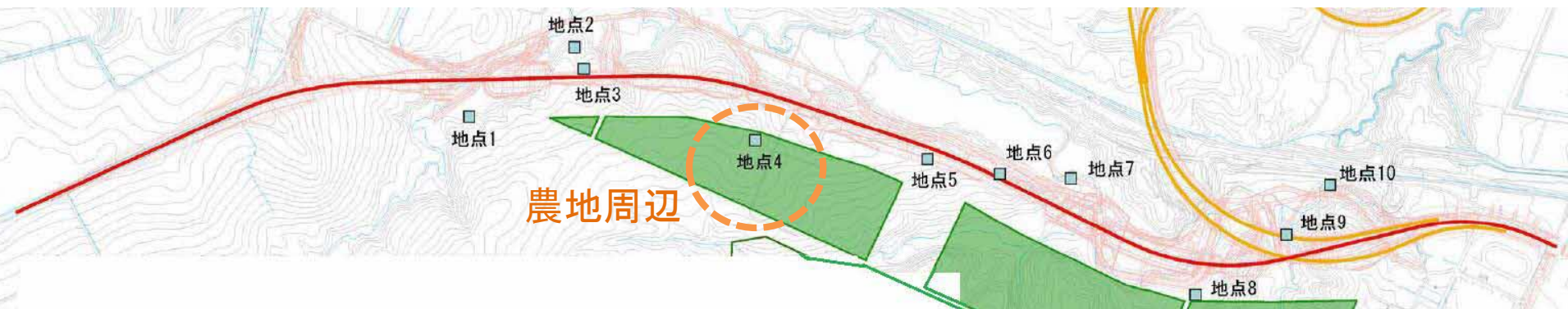
- ・ 4月に自動撮影カメラを10地点に設置・通年撮影。
※足跡・ねぐら痕跡および農地・尾根・沢地等移動が期待できる場所を選定

【5月までの調査結果から】

- ・ 農地周辺での活動を確認
- ・ 現時点での移動場所の目立った特性は無い

【シカの生態における注目点】

- ・ 四季による移動経路の変化を把握する。
春から秋は活動が多く、秋が最も活発になる。また、冬は活動が鈍くなる。
- ・ 道路が出来ても、移動経路を変えないため、工事で新たな移動経路を構築しても、そこへの誘導が必要となる可能性がある。
- ・ 特に農地周辺の移動に注目する。
- ・ 冬季は、過年度の足跡調査から原始林側での活動が多いと予想される。



②ロードキル

1. 両生類の対策には、スロープ付きの側溝の設置事例を参考に対策方法を検討する。



(設置例) 道道エルフィンロード



(設置例) 道道奥尻島線

2. 車のヘッドライトが夜行性の昆虫類に及ぼす影響について、道路勾配やカーブおよび周辺地形によって異なる照射範囲を検討し、有効な対策を検討する。



(参考) 遮光壁の設置事例

【検討内容】

- 盛土部・切土部・橋梁部・水域・陸地・生息種等の組み合わせ等で効果的な方法を検討
- 特に野幌原始林方向の負荷を低減できるように検討する。
- 施設設置の場合、風雨や雪に対する弊害および維持管理性の考慮も必要。

③植生工法の検討

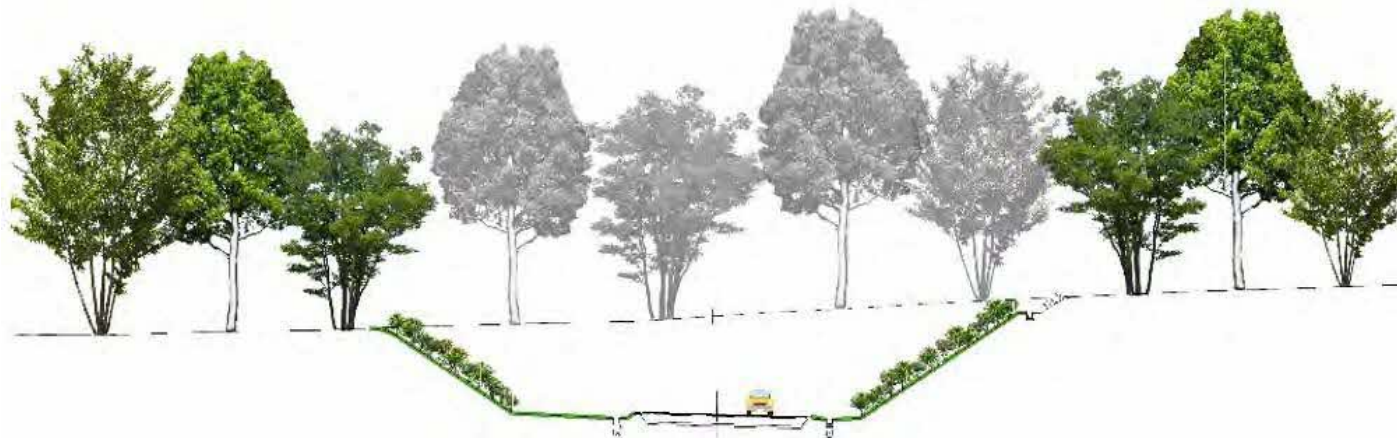
工事の影響に分け、緑化目標を設定し検討をすすめる。

施工エリア	工事の影響	目的
工事用道路平坦・施工ヤード	一時的な改変	喪失する植生の「復元」
本線と工事用道路の切土法面	永久改変	新たな植生環境の「創出」※

※ 高木での復元は、倒伏のおそれがあるため避ける

■緑化目標の設定

目標	目的	対象エリア	目標年
短期目標（初期緑化）	外来種の侵入抑制 のり面の侵食防止	全域	1～3年
長期目標（長期緑化）	喪失する植生の復元	工事用道路平坦・施工ヤード	10年
	新たな植生環境の創出	本線・工事用道路の切土法面	10年



③植生工法の検討

- ・緑化方法について、参考にした施工事例が当該フィールドに適しているか確認する。緑化目標を達成できるよう、種子、種子の配合率・混合率について、最適なパターンをフィールド試験により確認する。
- ・表土の扱いについて、保管期間や養生方法について検討する。

■フィールド試験概要

目標	目標の対象エリア	緑化箇所	勾配	緑化方法	施工方法	緑化内容
初期緑化	全域	盛土のり面部	1:1.5	法覆基材	土羽打ち	表土をすき取り張付ける。
				法覆基材 +補助種	土羽打ち	表土に草本類の種子を混合し張り付ける。※1
		切土のり面部	1:1.5	植生基盤材 +補助種	吹付	植生基盤材に地域性種を加えて吹付ける。※2
				植生基盤材 +補助種	吹付	植生基盤材+地域性種に根付きの良い草本類種子を加えて吹付ける。
長期緑化	本線の切土法面	切土法面	1:1.5	播種	吹付	地域性種を播種する。※3

■表土の扱いについて

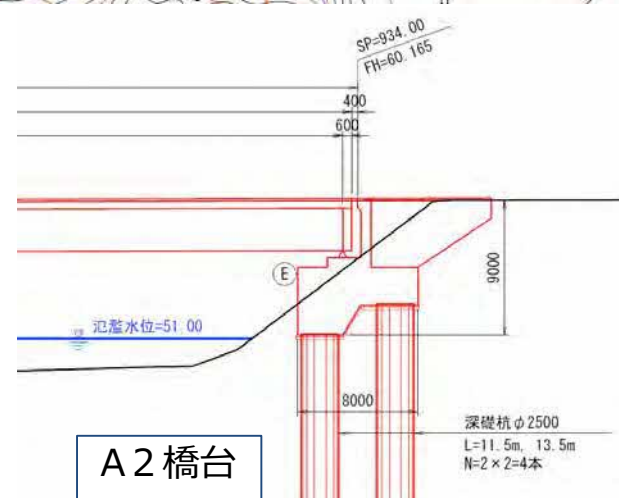
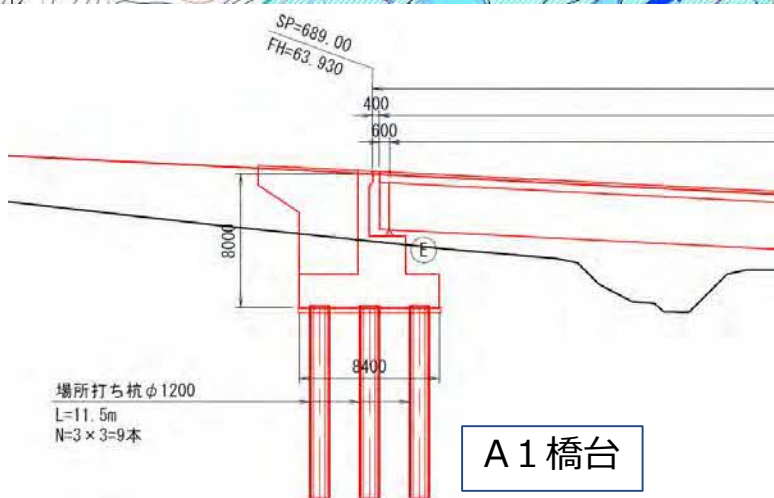
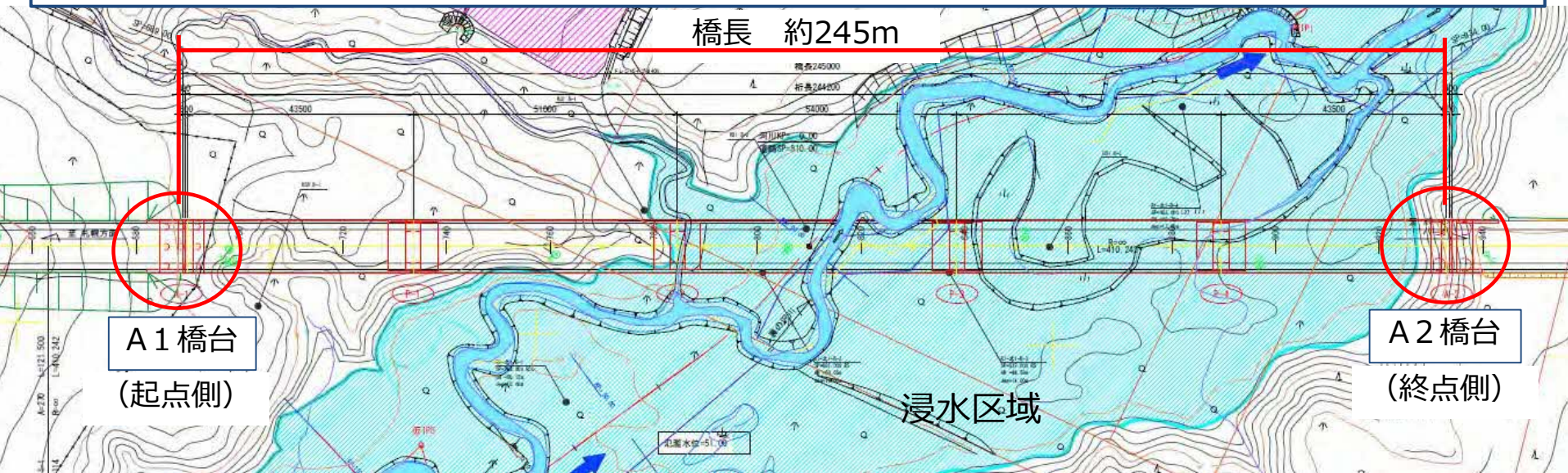
工事用道路部の環境復元について、表土を利用することを基本とするが、施工箇所による表土の保管期間や養生方法について計画する。

④ 冬季路面管理の検討

冬季の路面管理は、周辺道路を含めた道路管理の維持管理方針を検討し、交通安全確保を優先的に考慮したうえで、自然への影響を最低限にとどめるよう対策を検討する。

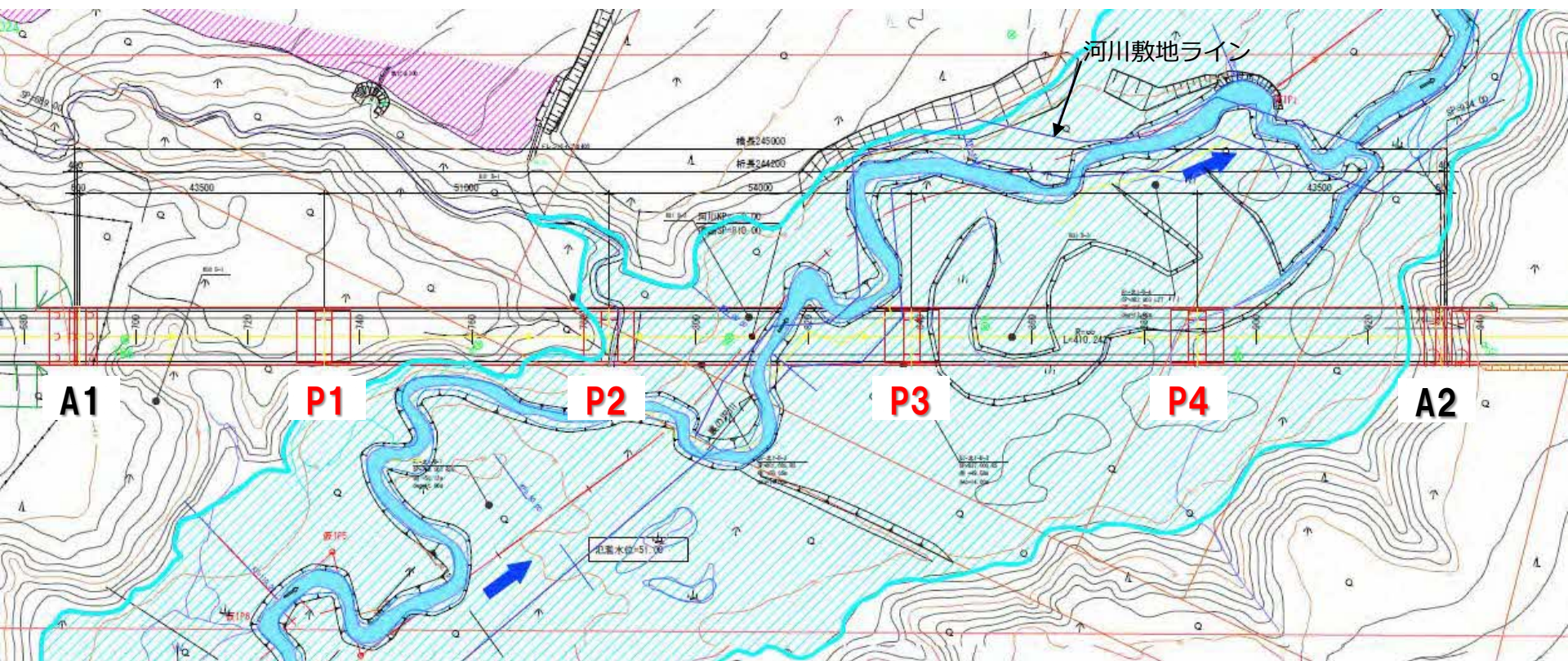
【1号橋 橋台位置】

橋台位置は、浸水区域の外側となるように設置する。
※設置測点は、詳細設計により確定する。



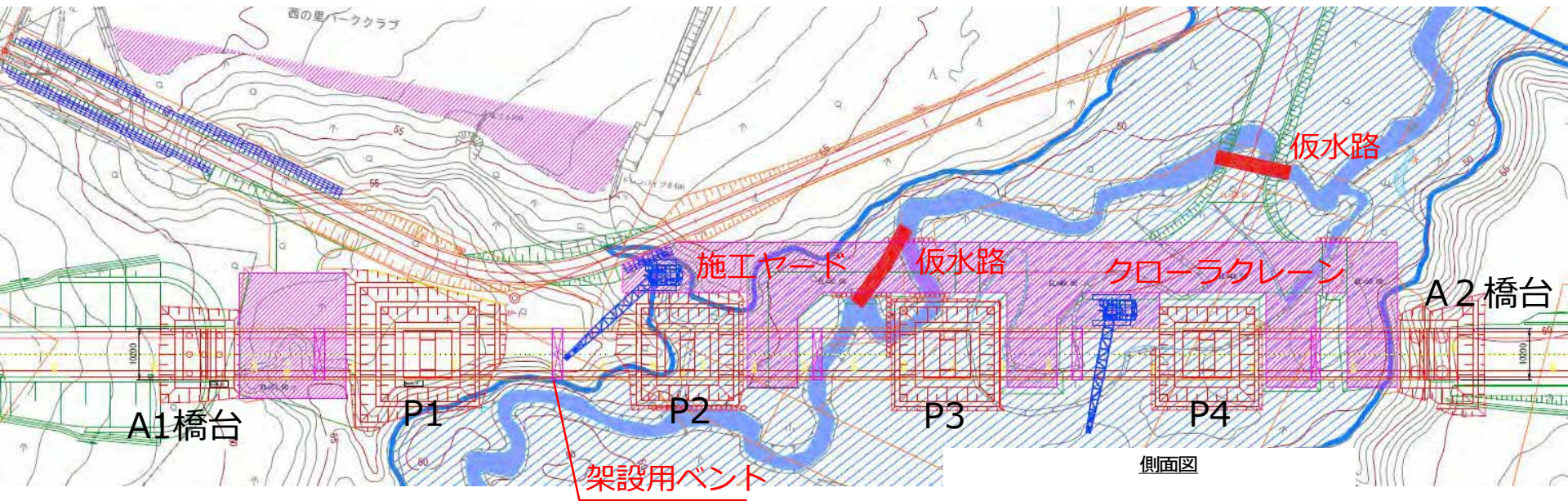
【1号橋 橋脚位置】

当該河川については、湍筋の変動が想定されることから、橋脚の配置については、経済性を考慮した支間長（橋脚間の距離）により計画した。

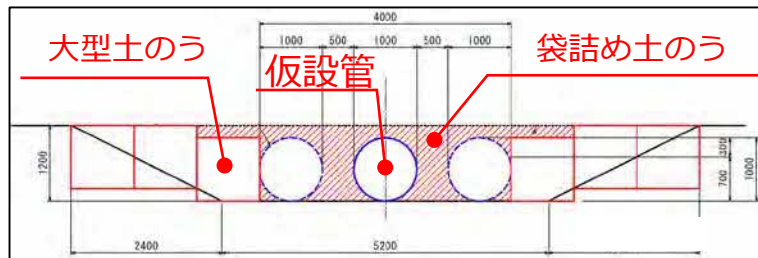


【1号橋 施工エリア】

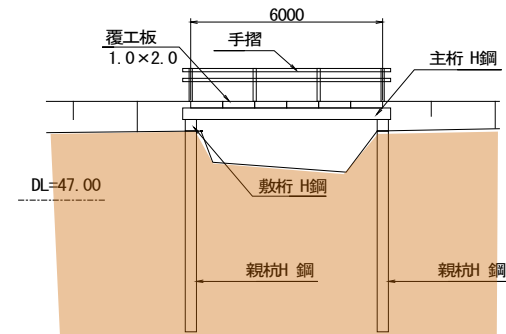
橋脚の掘削や上部架設のための施工エリアは、下図のとおり。



側面図



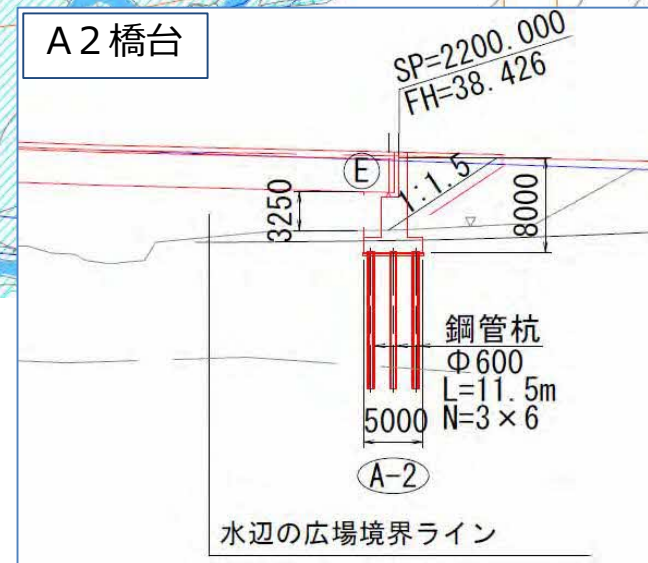
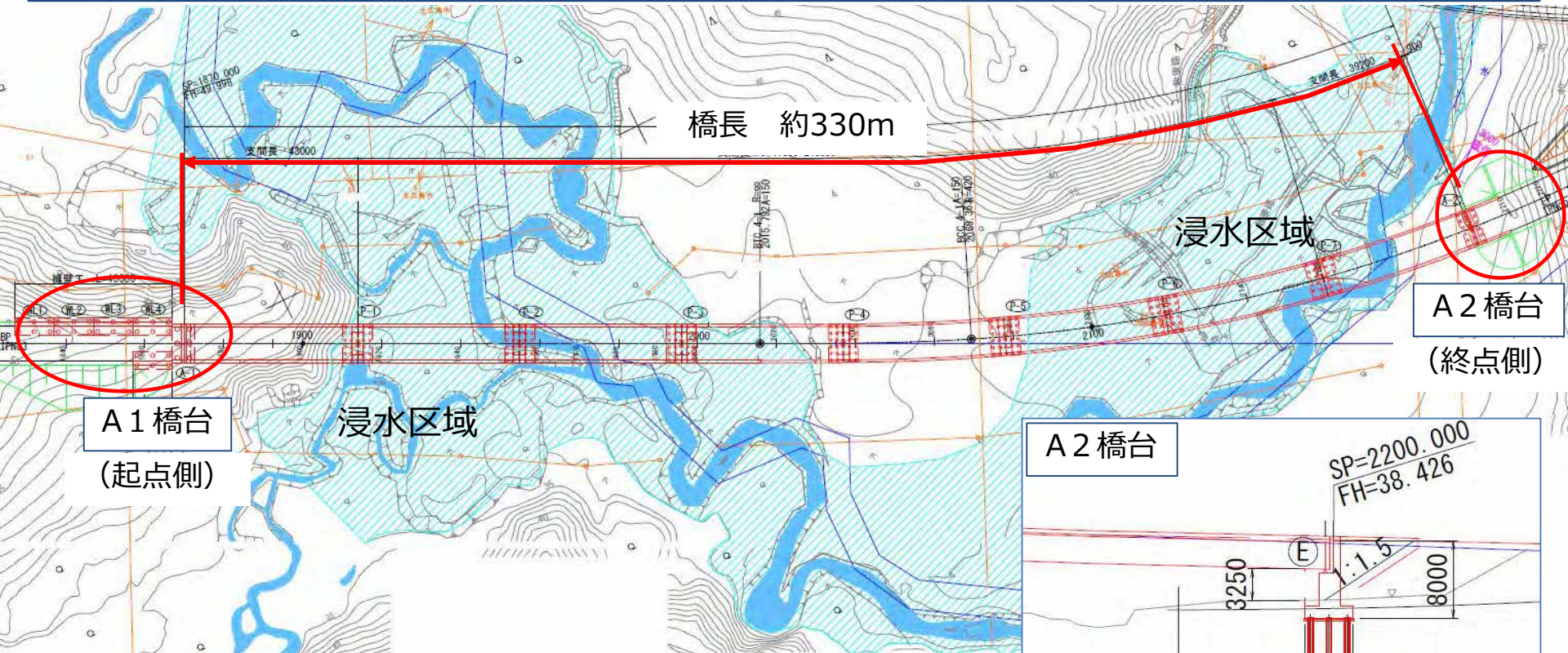
参考図-河川横断箇所



参考図-車両荷重に耐える仮橋構造

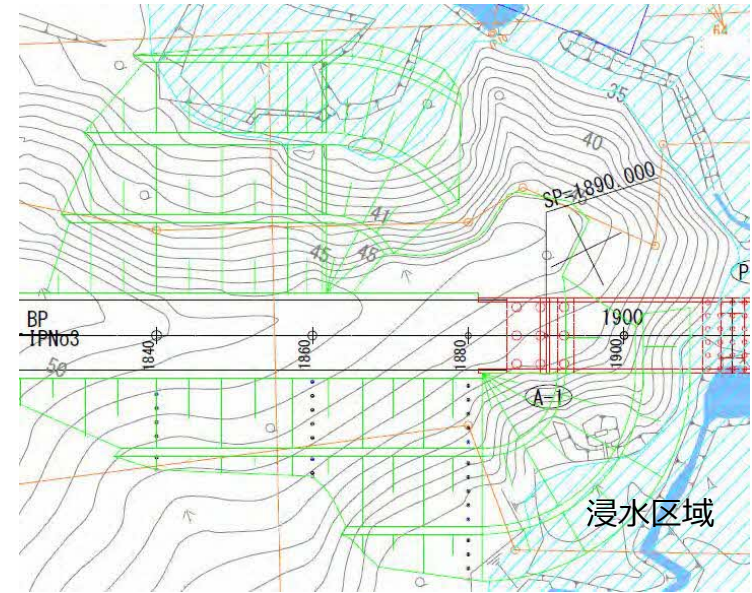
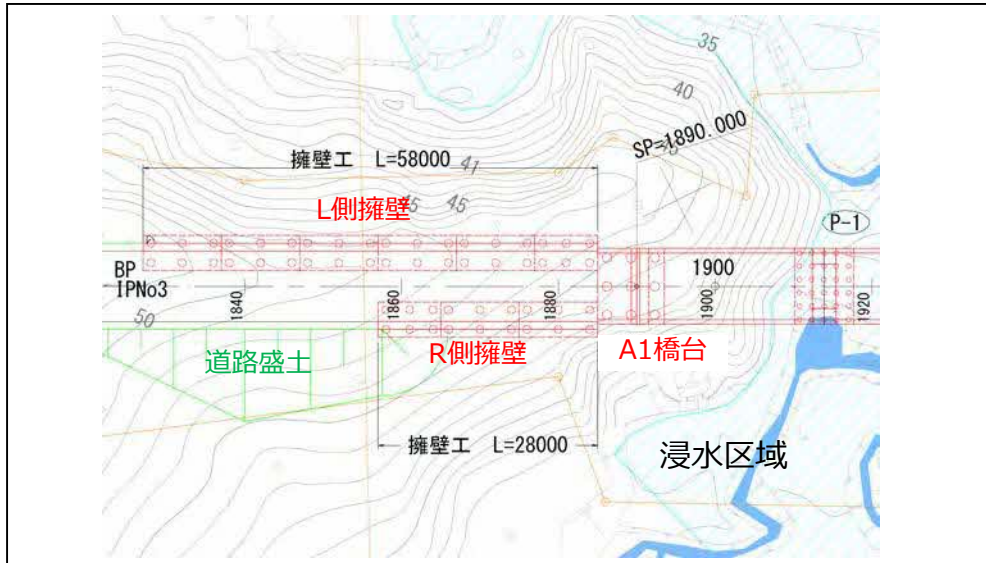
【2号橋 橋台位置】

橋台位置は、浸水区域の外側となるように設置する。
※設置測点は、詳細設計により確定する。

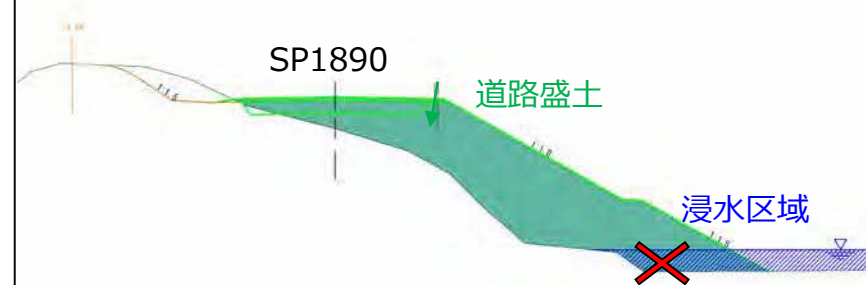
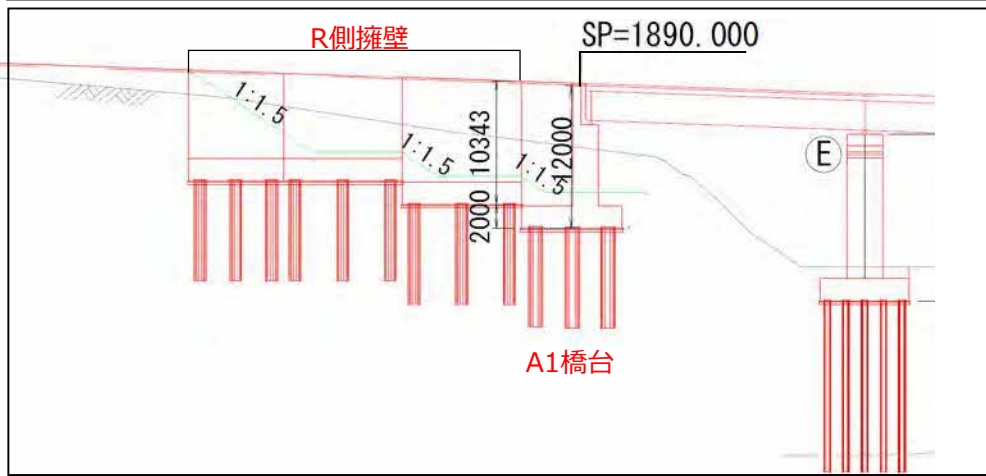


【2号橋 A1橋台の位置】

盛土が浸水区域まで達しないよう擁壁を設置する
※設置測点及び擁壁を設置する範囲は、詳細設計により確定する。



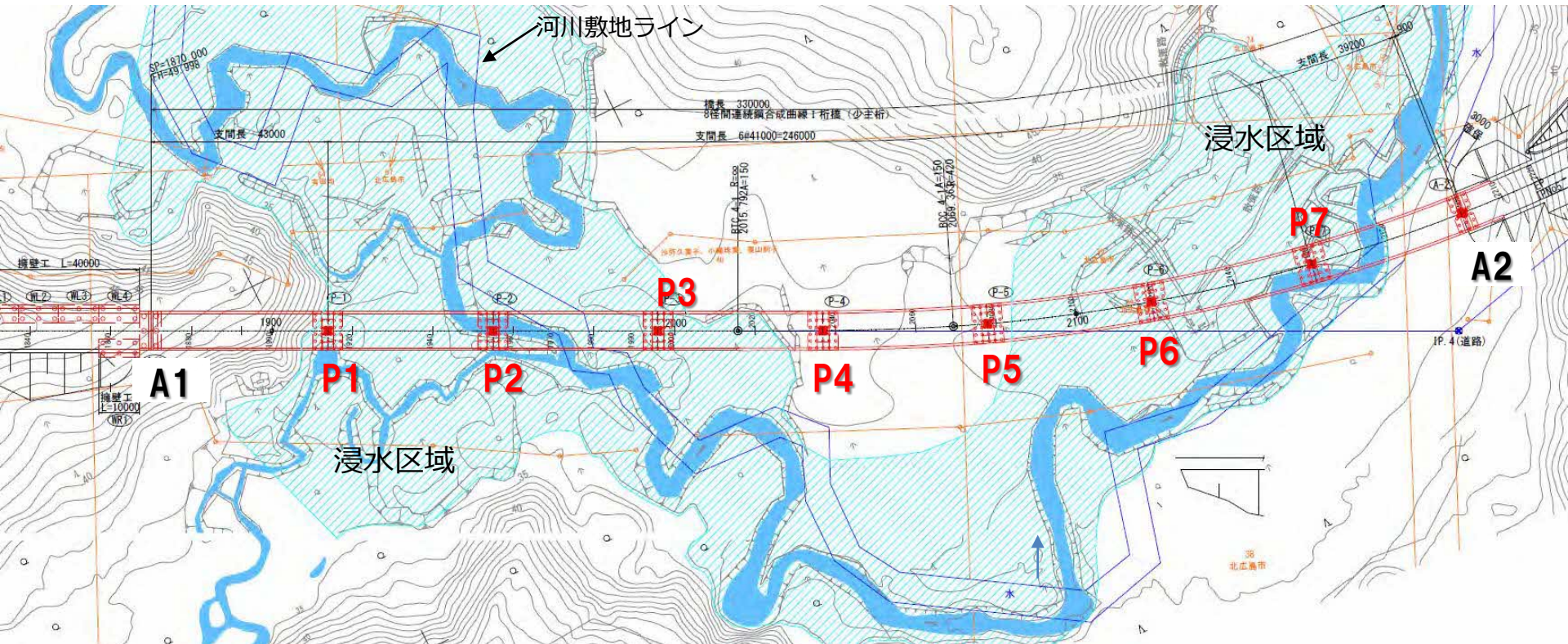
(参考図) 擁壁を設置しない場合



(参考図) R側擁壁を設置しない場合

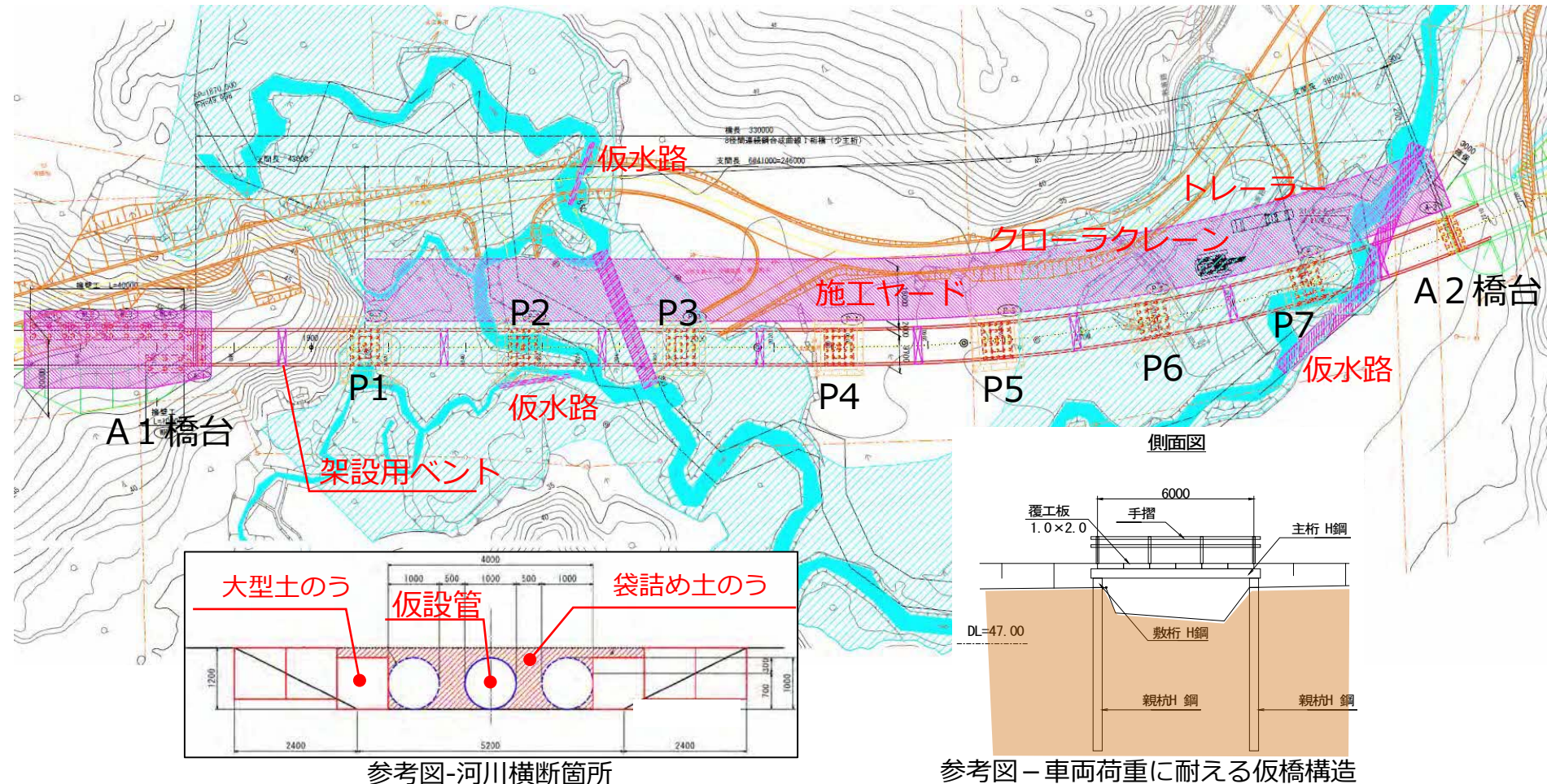
【2号橋 橋脚位置】

当該河川については、湍筋の変動が想定されることから、橋脚の配置については、経済性を考慮した支間長（橋脚間の距離）により計画した。



【2号橋 施工エリア】

橋脚の掘削や上部架設のための施工エリアは、下図のとおり。



【3号橋 橋台位置】

やかましの森の利活用に配慮し、橋台を配置する。

